

六甲ヒルケル 試合結果

■ 神戸市民大会

■ 3月25日(日)初戦 vs EVOLIVATO(市1部) [垂水健康公園]

1-1 PK 3-5 初戦敗退

前半先制点を許すものの、後半終了間際に63期坂上がコーナーキックにヘディングで合わせ追いつく。格上相手に惜しくもPK戦で敗戦。新メンバーが加入し、今季の可能性を感じる初戦となりました。

■ 2018年度神戸市2部リーグ

■ 【第1節】4月8日(日) vs 神戸ファイヤー@岩岡グラウンド芝

●2-4 [得点者] 赤羽啓、佐々木

詳細:[前半] 0-2 [後半] 2-2 [Total] 2-4

前半最初は押し込むものの、その後風下の影響もあり、押し込まれ、中盤までに2失点し、前半を折り返す。後半風上に立つと、その優位性を生かし、奪ったPKから赤羽啓が得点。田中真(64期)の背後への抜け出しからグラウンダーのクロスで佐々木が押し込み、2-2に追いつく。その後、膠着状態が続くが、追加点を決めることができず、逆に終了間際、続けざまに2失点し、2-4で敗戦。

後半初めのような相手を圧倒的に押し込む展開を、試合全体を通じて行うゲームプラン・体力が必要であると感じた試合であった。しかしながら、昨年まで積み重ねてきた経験がゲームに反映されているため、勝ち点を取りこぼさず、できるだけ早く残留に必要なポイントを稼げるよう第2節以降に臨みたい。

■ 【第2節】4月22日(日) vs Kawasaki (A) @岩岡グラウンド芝

△1-1 [得点者] 赤羽駿一(66期)

詳細:[前半] 0-0 [後半] 1-1 [Total] 1-1

前半からなかなか主導権を握ることができず、終始押し込まれる展開が続くも、最後のところで何とか踏みとどまり、折り返す。

後半は、中盤から右サイドへのロングボールを多用し、押し込みを図ろうとする。そんな中、敵陣中央で得たFKを赤羽駿一(66期)が直接ゴールに流し込み、先制する。しかし、その後も押し込まれる展開が続き、耐える展開が続くが、自陣エリア内で与えたPKを決められ、追いつかれる。終了直前、富本(64期)がゴールから30m付近で得たFKを赤羽駿一が直接狙うが、相手GKのファインセーブに阻まれ、試合終了。

自分たちで主導権を握る時間が少なく、心身ともに消耗する試合だった。チームとして意図した試合運びをするための落とし込みと、これから迫る暑さに耐えうる運動量が必要であると感じた試合であった。

■ 【第3節】5月3日(木・祝) vs 兵庫県庁(A) @小野浜グラウンド

△3-3 [得点者] 中世古 (63 期) 家山 (62 期) ×2

詳細：[前半] 1 - 3 [後半] 2 - 0 [Total] 3 - 3

前半、高い位置でボールを奪い、森浦から右サイドに展開。ドリブルで運んだ大月 (66 期) がグラウンダーのクロスを上げ、中央の中世古 (63 期) が綺麗に流し込み、先制する。しかし、慣れない 3 バックを選択したこともあってか、立て続けに 3 失点し、前半を折り返す。

後半は、ポジションを修正しバランスを取る形を選択。粘り強く戦い、攻撃時には FW と WB が相手の背後をつく展開を続ける。すると、家山 (62 期) が味方シュートのこぼれ球を押し込み 1 点差。さらに終了間際、FK から赤羽 (66 期) のフィードをゴールに押し込み同点とし、試合終了。

3 失点とも、しっかりクリアしたり、前からプレスで嵌め込み取り切ったりすることで防げるものであったと感じている。攻撃時は、高い位置を取る両サイドと FW が、狙い通り相手 DF の背後をとることができた。

次節は強豪との試合なので、これまで以上に攻守のバランスに気をつけ、勝ち点を持ち帰りたい。

■ 【第 4 節】 5 月 13 日 (日) vs 神高クラブ@住友ゴム

△1-1 [得点者] 宇崎

詳細：[前半] 0 - 0 [後半] 1 - 1 [Total] 1 - 1

試合開始前から雨が降り始め、土のグラウンドは水たまりが出来るピッチコンディション。そのため、両チームともクリアを大きくし、敵陣に押し込む展開を繰り返す。また、球際を激しく争う、インテンシティーの高い展開に。

前半は、スコアレスで折り返すと、後半半ばに、赤羽啓の右 CK から宇崎がヘディングで押し込み、待望の先取点を奪う。その後も強度の高い試合展開であったが、後半ラストプレーで、反対に右 CK からヘディングで押し込まれ、試合終了。

あとワンプレーで勝てただけに、悔しい引き分けとなった。

■ 【第 5 節】 6 月 17 日 (日) vs 我武者羅@北神戸田園

●1-3 [得点者] 赤羽啓

詳細：[前半] 1 - 1 [後半] 0 - 2 [Total] 1 - 3

前半早々、赤羽啓からの右 CK を濱渦 (71 期) がフリックし、林啓太がヘディングで押し込もうとするも、無情にもボールはバーの上へ。また、高い位置からのボール奪取から右サイドに展開し、高松から斜めのグラウンダーをエリア内に入れるが、町野が決めきれず。反対に、我々の CK を相手がクリアしたところからカウンターされ、失点する。その後、敵陣中央 45m 付近で得た FK を赤羽啓が豪快に決め込み、同点で前半を折り返す。

後半開始早々、町野が負傷でピッチ外に出ている際に、失点する。その後もペースをつかめず、もう1失点し、1-3で試合終了となった。

■ 【第6節】7月2日(日) vs ディアマンテ・M@垂水健康公園

●2-3 [得点者] 田中真(64期) 赤羽啓

詳細:[前半] 0-1 [後半] 2-2 [Total] 2-3

30°Cを超える暑さとムシムシした晴れの日、お昼時のキックオフ。

両チームともにプレスをかけられず、間延びする展開に。自陣真ん中の相手FKから直接決められ、失点。なかなか攻撃も形にならず、ビハインドで前半終了。

後半、4-3-3から4-4-2にシステム変更し、高い位置からのショートカウンターを狙う意図を徹底する。すると、後半開始早々、中盤高い位置からボール奪取し、左SHの赤羽駿一(66期)に展開すると、ハーフスペースに飛び出した田中真(64期)にスループス。相手DF二人に対応されるも、華麗なドリブル突破からカットインし、シュートを左下隅に突き刺し同点。また、直後に、相手DFのクリアミスで赤羽啓がセンターライン付近からハーフボレーでロングシュートし、そのままゴールネットを揺らし逆転。その後、相手のパワープレーに対応するも、耐えきれずに終了間際に立て続けに失点し、終了。

上位チーム相手に勝ち点を取りこぼし続ける厳しい試合が続いているが、後半戦では、しっかり勝ち点を積み上げていき、2部残留を目指したい。

■ 【第7節】9月9日(日) vs ブルズ@岩岡グラウンドB(土)

○1-0 [得点者] 田中真(64期)

詳細:[前半] 0-0 [後半] 1-0 [Total] 1-0

連日降り続く雨の影響による劣悪なピッチコンディションという条件。豪雨とともにキックオフ。

上記の条件では、陣取り合戦となるので、相手DFラインの背後を狙う展開に持ち込む。相手も同様に両サイドハーフの裏にボールを前進させ、ヒルケルのサイドバックとの1対1に持ち込む展開に。前半は双方ともに決め手に欠き、スコアレスで折り返す。

ハーフタイムに再度、攻撃はペナルティエリア幅で相手DFの背後を狙うこと、守備はできるだけ大きくクリアし、球際を激しくいくことを徹底させる。若干相手の勢いがなくなってきたが、依然として我慢比べの展開。そんな中、後半半ばに中盤で林啓太の落としから赤羽駿一(66期)がダイレクトでバックライン背後にスループスしたところ、田中真(64期)が一人抜け出し、GKと1対1を冷静に肩口を抜くチップシュートで先制。残り時間も粘り強く戦い、選手交代もうまく使い、試合をクローズさせた。

7試合目にして待望の勝ち点3を得ることができ、また、チームのレベルも向上していると感じている。残り4試合、一つでも多くの勝ち点を稼ぎ、残留を達成させたい。

■ 【第8節】9月23日(日) vs 神戸FC(C)@垂水健康公園

●0-1

詳細：[前半] 0 - 0 [後半] 0 - 1 [Total] 0 - 1

3連休中日、心地よい秋晴れの中、11時キックオフ。

ヒルケルはややコンディションが悪く、また、選択したフォーメーションからか、攻撃時の選手間の距離感が遠く、苦しい展開が続く。

一方、相手の、簡単に背後を狙う、また、両ウイングにボールをつける展開にはしっかり対応し、双方我慢比べの展開が前後半通じて続いた。

そんな中、後半終了間際に相手FKからボールを押し込まれ、0 - 1で試合終了。

今期は、もう少しで勝ち点3・勝ち点1というところを粘り切れず勝ち点を失う展開が続いている。試合終了まで粘り強く戦えるよう、のこり3試合、徹底し、勝ち点9を積み上げる。

■ 【第9節】 10月9日（月・祝）vs 武陽クラブ@垂水健康公園

○1-0 [得点者] 田中真（64期）

詳細：[前半] 0 - 0 [後半] 1 - 0 [Total] 1 - 0

3連休最終日、体育の日にふさわしい気候の中、9時半キックオフ。

我々が前からはめこもうとするも、相手はあっさりロングボールを蹴ることから、前と後ろが間延びし、距離感が悪い展開。ボールの奪い方がいい際は、シュートまでもっていくも、スコアレスで前半終了。

後半に向け、相手を迎え撃ち、低い位置から攻撃陣のパワーを生かしてカウンターを行うよう変更を加える。相手にボールを持たせ、適切な距離感をもってセカンドボールの回収をし、カウンターからチャンスを伺う。すると、中盤中央から佐々木が裏に抜け出し、GKとの1対1のこぼれ球を田中真が押し込み、先制する。その後、度々カウンターからチャンスを作るも、シュートまでもっていかず、そのまま試合終了。

残留に向けて大きなシックスポイントゲームを制した。残り2試合、勝ち点6を積み上げたい。

■ 【第10節】 10月21日（日）vs 川重神戸@住友ゴム

△2-2 [得点者] 坂上（63期）中世古（63期）

詳細：[前半] 0 - 1 [後半] 2 - 1 [Total] 2 - 2

社会人リーグの試合会場における最西の会場で、朝一番のキックオフ。

最下位相手に慢心があったのか、試合を通じて後手の展開が続く。前半はじめ、中盤でパスカットされると、簡単にDFラインの背後を狙われ、折り返しから先制点を許す。

そのまま折り返した後半、味方ゴールキックからヘディング、ロビングパスで繋ぎ、相手CBの間を抜けだした坂上がGKとの1対1を制し、左サイドネットに流し込む。その後、再度DFラインの背後を取られ、失点を許す嫌な展開になる。しかし、左CKからの流れで、右サイドでボールを拾った徳丸が絶妙なクロスを上げ、最後に中世古が押

し込み、再度追いつく。その後双方チャンスがある中、試合終了間際、自陣中央からのクイック FK から濱渦 (71 期) が抜け出すも、1 対 1 を決めきれず。

勝ち点 1 を何とか拾う結果となった。

■ 【第 1 1 節】 1 1 月 4 日 (日) vs つつじが丘@岩岡グラウンド A (芝)

○6-0 [得点者] 御厨 (44 期) 桑本 赤羽啓 宇崎 赤羽駿一 (66 期) × 2

詳細:[前半] 2 - 0 [後半] 4 - 0 [Total] 6 - 0

リーグ戦最終節にふさわしい、サッカー日和に天然芝での開催。お昼時のキックオフ。相手は残留を争う相手であり、是が非でも勝ち点 3 を取るという強い気持ちをチーム全員で共有して試合に臨んだ。

試合開始からエンジン全開で戦い、佐々木・濱渦 (71 期)・赤羽啓・赤羽駿一 (66 期) などが積極的にシュートを放つ。

そんな中、右 CK からの混戦を今期 GK としてフル参戦し、CB としては初出場の御厨 (44 期) が押し込み、待望の先制点を挙げる。その後、右 SB として出場した桑本が中盤からミドルシュートを豪快に決め、2 点リードで前半を折り返す。

後半も、試合を決めきるべく、積極的にゴールに向かう展開に。開始早々、少し中盤に降りた赤羽啓が後ろから受けたボールをターンし、GK の頭上を破るロングシュートで追加点を奪い、チームの姿勢を体現する。その後も、CK から宇崎、カウンターから赤羽駿一が 2 得点を奪い (そのうち 1 アシストが大月 (66 期))、6 得点の快勝となった。本試合において、キックオフから積極的に相手ボールホルダーへのプレッシング、奪ってから素早くゴールを目指す展開を、試合を通して体現できた。

今期リーグ戦は 3 勝 4 分 4 敗の勝ち点 13、得点 20 失点 18 得失点差 + 2 となった。

■ ユーハイムカップ

■ 【1 回戦】 1 月 14 日 (月・祝) vs ガラクターズ@三木防災人工芝

△1-1 (PK3-0) [得点者] 御厨 (44 期)

詳細:[前半] 0 - 0 [後半] 1 - 1 [Total] 1 - 1

PK: ○ × ○ ○

× × ×

ユーハイムカップ初戦は日没後の 17 時過ぎからナイターでのキックオフ。動きが非常に悪く、攻守ともに流れを掴めない展開に。相手の両サイド裏への展開に後手を踏む。サイドのクロスからヘディングシュートを許すも、GK 浪花 (66 期) が好セーブを見せ、スコアレスで前半を折り返す。

主導権をつかみよう微調整を加えて臨んだ後半であったが、開始早々相手カウンターから失点を許す、厳しい展開に。後半も前半同様攻守ともに流れをつかめない。そんな中、

CKのこぼれ球から再度クロスを入れると、混戦から御厨（44期）が押し込み、同点に追いつく。相変わらず攻撃がうまくいかないも、守備はうまくコントロールし、PK戦に持ち込む。

ヒルケルは先行を選択する。1, 3, 4番目の赤羽啓、赤羽駿一（66期）、宇崎がしっかり決め、GKの浪花が1, 3番目をセーブし、PK戦の末、勝利した。

■ 【2回戦】 1月27日（日） vs ナブテスコ@垂水スポーツガーデン

○4-2 [得点者] 小野（72期）×2 宇崎 田中真（63期）

詳細：[前半] 1-0 [後半] 3-2 [Total] 4-2

明け方まで雪に見舞われた寒い中、試合が行われる。

高いボール支配率の中、前半終了間際に小野が先制点を挙げる。

後半立ち上がりにはPKで追いつかれたものの、すぐにCKから宇崎が頭でゴール。

その後小野、田中とゴールを重ねるが試合終了間際に失点を喫し、4-2で終了。

■ 【3回戦】 2月3日（日） vs 神戸市役所@垂水健康公園

○1-0 [得点者] 町野

詳細：[前半] 1-0 [後半] 0-0 [Total] 1-0

心地よい気候の下、キックオフ。

高いボール支配率を維持し、敵陣内に押し込むが、フィニッシュの精度が悪く、なかなかゴールを割ることができない。そんな中、町野がボールを押し込み先制。

後半は一転して押し込まれる厳しい展開となるが、小沢（67期）・中村（64期）・桑本・家山（62期）のDFラインを中心に粘り強く対応し、クリーンシートでゲームを終える。

■ 【4回戦】 2月10日（日） vs 神戸市役所 1947@岩岡グラウンドA（芝）

●1-1 PK2-3 [得点者] 赤羽啓



県リーグ2部の相手に5-3-2を選択して相手攻撃陣にうまく対処する。うまく対処していたが、一瞬の隙をつかれ、先制を許す。しかし、直後に前プレから赤羽啓が相手GKへのバックパスをさらい、無人のゴールへ流し込む。

前半を同点で終え、後半も守勢に回るが、5-3 のブロックでうまく対処し、PK に持ち込む。1・3 番目の赤羽啓・赤羽駿一（66 期）は決めるが、2・4・5 番目はすべてバーに当てる。

相手 PK に対しては、浪花（66 期）が 1 本セーブし、1 本は枠外であったが、2-3 で敗退となった。

これで 2018 年度の全日程が終了しました。